

国語

(解答番号 ~)

※国語は「経済経営学部」および「人文学部」は必須。
「健康医療学部」および「バイオ環境学部」は選択。

次の文章は、二〇二〇年末に発表されたものであり、冒頭の「この騒動」は新型コロナウイルス禍を指す。これを読んで、後の問いに答えなさい。

この騒動の中で様々な言葉が飛び交ったが、気になったひとつは「不要不急」の4文字であった。「不要不急の外出自粛」である。

ところが「不要不急」を自粛すると今度は経済が回らない。そこで、「旅行に出よ」「食事に出よ」と「不要不急の外出」をシヨウレイする政府に即座に反応して、この秋には、都市の中心部や観光地に人々は押し寄せた。一方、コロナ禍の中で事業の継続が困難となり、失職して明日の生活にも苦勞する困窮者たちが出現する。にぎやかな旅行者の群れと生活困窮者が同時に現れる。

この何とも奇妙な光景をどう理解すればよいのだろうか。私には、狂気じみた笑劇のように映る。もちろん、生活困窮者にとっては笑劇どころではないだろうが、少し突き放してみれば、われわれは、何とも奇妙な社会^アにいる。コロナのおかげで、「命」が二つに分裂したのだ。感染症による生物的な意味での命の消失と、経済的破綻^{はたん}からくる命の消失である。この二つが矛盾^{むじ}することになった。

だがそれは、新型コロナウイルスという未知のウイルスにシユウゲキされた一時的な歪み^{ひず}なのだろうか。それとも、新型コロナウイルスが暴き出した現代社会の抱える異常性なのだろうか。

政府も経済界も投資家も、今日の状況は未知のウイルスによる一時的な変調だと見ようとしている。ワクチンが行き渡り、治療法が確立すれば問題は解決し、そこへ「デジタル化」や「グリーン社会化」を推進すれば、すぐに経済は成長軌道に戻るだろう。あたかもパソコン上で1ページ消去するかのよう^イに、この1年を消去すればよい。「コロナ後^イ」とは、新たなイノベーションをめぐり、米中を軸にしたグローバル競争の時代だという。

こういう見方は確かにありうるだろう。だが、それでは何のためのコロナ騒動であったのだろうか。いったい何を学んだのであろうか。この1年が、ワクチンができるまでの小休止程度^Aであるとしても、私は、この1年の「狂気じみた笑劇」から透けて見えたものを、可能な限り深刻に受け止めたいと思う。それを「不要不急」から考えてみたいのである。

(I) 「不要不急」の反対は、いわば「必要^カキユウ」である。「必要^カキユウ」は、それがなければ人間の生存が脅かされる絶対的必要だとすれば、「不要不急」は、生命の維持に

は直接に関わらない。「生命の維持」からすれば、それは無駄なもの、過剰なものであろう。ところが、この無駄を止めた途端に、「必要カキュウ」が切迫し、「生命の維持」さえも危機に陥ることとなった。

となれば、現代社会において、われわれの生命や生存は「不要不急」なもの、無駄なもの、過剰なものによって支えられているということになる。

どうしてそうなるのか。さしあたり答えは簡単だ。現代社会では、あらゆる活動が市場化^Bされ、人は、日々の食料から刺激的なエンターテインメントに至るまで、ほとんどの物やサービスが市場によって提供されるからだ。簡単にいえば、
Ⅱ 市場に依存しなければわれわれは生きてゆけないのである。

それだけなら Ⅲ ）、今日、われわれは、不要不急の拡大にこそ多大なエネルギーを注ぎ、不要不急によって経済を維持しようとしている。この数年、日本の経済を支えているものは、インバウンド政策や観光業、各種のエンターテインメント、グルメなどであった。「不要不急」の代名詞のようになって名をはせたある種の「夜の街関連」への流れがとまっただけで、われわれの生活も命も大打撃を受けることとなった。

スロベニアの哲学者であるジジェクは、今回のコロナ騒動でひとつよかったことがあると述べている。それは、あの豪華客船のような^C 猥雑な船とはおさらばでき、デイズニールランドのような退屈なアミューズメントパークが大打撃を受けたことだ、といている。

これほど物騒^Dなことをいう気は私にはないし、「不要不急」が不必要だとは思わないが、彼の言い分^Eを付度^Eすれば、「不要不急」にも様々あるということだろう。万事を市場の力に委ねて、利潤原理と経済成長への寄与でのみ評価してはならない、ということだ。ここには、本来、価値の選択がからんでくる、といたいのであろう。

人はただ生存のためだけに生きるものではない。古代ローマ人は「パンとサーカス」といったこの社会には「パン」のみならず「サーカス」も必要なのである。生存に関わる生だけではなく、精神や身体^dのユラクや刺激が必要であり、人々が集まって騒ぐことも必要なのだ。時には、まがましいものも人は求める。謹厳実直・
Ⅳ ーに生きるだけが人の生ではない。古代ローマ人は、巨大な闘技場を造って剣闘士と猛獣の戦いを見物していたのである。

「サーカス」は「生存」にとっては無駄なもの、過剰なものである。必要なものではない。だ

が、この過剰性こそが文化を生み出した。「パン」という必要が「経済」の基礎だとすれば、「サーカス」は「文化」の基礎であった。古代ローマ人は「サーカス」だけではなく、巨大都市を、建築を、美術を、文芸を、それに風呂や道路や水路などの公共建造物も生み出したのである。ここにその国に特有の価値観や文化が形成された。

人を動物から区別するのは、ただ生存のための食料の確保ではなく、「文化」という無駄なものを生み出し、そのために過剰なエネルギーを投入する点にこそある。だからこそ、過剰なエネルギーをどう使うかは、その国の文化にとってきわめて重要な事項となる。

にもかかわらず、今日、芸術も、科学も、エンターテインメントもすべて同じ経済原理のもとに置かれてしまった。「不要不急」と「必要」は地続きになってしまい。あらゆる種類の「文化」が「経済」に従属することになった。

市場経済は、「不要不急」と「必要」を区別することなく、いつさいを「必要」とみなすほかない。なぜなら、人々の欲望は無限であり、資源は有限である限り、市場で提供されるものはすべて人々が求めるものだからである。そこに善いも悪いもない。欲望に対して資源は常に希少であり、それを言い換えれば、経済とは「^エ希少性を処理する方法」ということになる。まさにそれが今日の経済学の考え方なのである。経済学とは、「希少性の処理」をめぐる研究であり、希少性のもとで人々の欲望の最大化を論じるものとされる。

こうして、われわれは何か^オきわめて大事なものの見方を見失っていった。それは、「生存」の必要を超えた「過剰なもの」をどのように有効に使い、どう活用するかというような問題のたて方である。「過剰性の経済学」といつてもよいであろう。「不要不急とは何か」、あるいは「何が不要不急なのか」という問いはきわめて重要なのである。生存の確保だけではなく、いかなる生、いかなる社会をわれわれは望ましいと考え、いかなる文化を残すかという価値をめぐる問いがそこにはある。

ところが、「過剰性の経済学」ではなく「希少性の経済学」の立場にたつと、日々の食料も、必要な住居も、巨大クルーズ船も、アミューズメントも、「夜の街関連」もすべてが、希少資源のもとでの欲望充足の次元で並べられ、利益や収益だけが関心の対象になる。

また同時に、「希少性の経済学」に従えば、人は、より大きな欲望の充足を求めて、経済を無限に成長させようとするだろう。世界中を歩き、あらゆる情報を手に入れ、常に誰とでもつなが

り、人間の能力を超えた未知の次元にまで足を踏み込もうとする。自由、富、情報、空間、人間能力の無限の拡張が始まる。「拡大」こそが現代のキーワードとなる。

かくて「無限の欲望」と「希少な資源」を前提とする限り、イノベーションと経済成長主義だけが唯一の解決策となるだろう。「必要」と「不要不急」の区別は見えなくなり、「必要」をはるかに超えて、ますます「過剰なもの（不要不急）」は生産され続け、人はそれを追い求め、経済を拡大する。

だが今回のコロナ騒動は、（ V ）「必要」と「不要不急」の区別をゼンケイへと押し出した。確かに、この区別はあいまいである。だがそれでも、われわれは、何が必要で何が不要不急かを改めて問うた。人は最低限の「必要」だけで生きているわけではない。しかしまた、「不要不急」の無限の拡大は、人の生から本当に必要なものを奪い去りかねない。そしてわれわれは「必要なもの」と「不要なもの」の間に、実は、「大事なもの」があることを知った。

信頼できる人間関係、安心できる場所、地域の生活空間、なじみの店、医療や介護の体制、公共交通、大切な書物や音楽、安心できる街路、四季の風景、澄んだ大気、大切な思い出。

これらは市場で取引され、利潤原理で評価できるものではない。またいくら「不要不急」を市場で拡張し、経済を成長させても得られるものではない。むしろ過度な市場競争と経済の拡張がその障害になりかねないであろう。「必要」も「不要不急」も、この「大事なもの」によって支えられ、またそれを支えるべきものである。

生の充実には、活動の適当なサイズがある。われわれは、物事にはすべて適切な大きさや程度があり、無限の拡大がよいわけではない、という実に当然の考えを忘れてしまった。その結果、「大事なものを」を随分と失い、傷つけてきたのではなからうか。

〔朝日新聞〕2020年12月26日朝刊 佐伯啓思の文章による〕

（注） 矛盾——論理学における用語。不整合・逆説・対立などを意味する。

（次頁に続きます）

問一 文中の傍線部 a～e に相当する漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ

一つずつ選びなさい。解答番号は、1 ～ 5。

a ショウレイ

- 1
- ① ショウドウ的な行動
 - ② 音楽のカンショウ
 - ③ 成果のヒョウショウ
 - ④ 適度な運動のスイショウ
 - ⑤ シュショウな心掛け

b シュウゲキ

- 2
- ① シュウメイ披露
 - ② ジャブのオウシュウ
 - ③ 施設へのシュウカン
 - ④ 神仏シュウゴウ
 - ⑤ シュウトウな計画

c カキユウ

- 3
- ① 組合へのカニユウ
 - ② カモクな人
 - ③ カカンな行動
 - ④ 事件のカチュウ
 - ⑤ カキ厳禁

d ユラク

- 4
- ① ユギョウの僧
 - ② ユエツを感じる
 - ③ 病気のカイユを析る
 - ④ 古語にユライする
 - ⑤ 悪人へのセツユ

e ゼンケイ

- 5
- ① ケイカ観察
 - ② ケイジョウ記憶合金
 - ③ ケイサイ許可
 - ④ ケイチヨウすべき話
 - ⑤ ケイショウの地

問二 傍線部A～Eの語の文中における意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、

6

10

A 小休止

- ① 長く続く仕事の合間の一休み
- ② 労働時間内に設けられた短い休憩
- ③ 短期間だけの経済活動の停滞
- ④ 社会の発展の小さなステップ
- ⑤ 活動を再開するための疲労回復の時間

6

B 市場化

- ① 売買取引を行うことが強制されていること
- ② 商品として売買・交換されていること
- ③ そこで何かが売買・交換される場所となること
- ④ 特定の場が設けられて売買取引を行っていること
- ⑤ 自由な売買・交換が徹底されていること

7

C 猥雑

- ① ごたごたして入り乱れていること
- ② 装飾が多すぎて見にくいこと
- ③ 人が混んで統制の取れないこと
- ④ 欲望が解放されており下品であること
- ⑤ 多種多様なものがあつて整然としないこと

8

D 物騒

- ① 物議をかもしそうなこと
- ② 人を傷つけそうなこと
- ③ 危険な感じがすること
- ④ 大胆不敵であること
- ⑤ 常識を無視したこと

9

E 付度

- ① 言わない部分を想像すること
- ② 心情などを汲み取ること
- ③ 事情を考えて取捨選択すること
- ④ 相手を尊重して遠慮すること
- ⑤ 考えなどを推量すること

10

問三 文中の空欄（ I ）（ Ⅱ ）（ Ⅲ ）（ Ⅳ ）（ V ）に入る最も適切な語句を、次の各群の①～⑤

のうちから、それぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、（ I ）が 11、（ Ⅱ ）

が 12、（ Ⅲ ）が 13、（ Ⅳ ）が 14、（ V ）が 15。

11 （ I ）

- ① 多分 ② 言ってみれば ③ さしずめ ④ いうまでもなく ⑤ 結局

12 （ Ⅱ ）

- ① つまり ② もはや ③ おそらく ④ いまだに ⑤ もちろん

13 （ Ⅲ ）

- ① まずまず ② おろか ③ まだしも ④ まあまあ ⑤ かつがつ

14 （ Ⅳ ）

- ① 清廉潔白 ② 質素儉約 ③ 豪華絢爛 ④ 利益第一 ⑤ 安心安全

15 （ V ）

- ① むしろ ② おそらく ③ 案の定 ④ 果たして ⑤ はからずも

問四 傍線部ア「奇妙な社会」についての説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから

一つ選びなさい。解答番号は、 16。

① 感染症拡大防止策の失敗により経済活動が停滞するという連鎖反応に見舞われた社会

② 感染症拡大防止策の成功が即座には経済活動に寄与しないという時間差に苦しむ社会

③ 感染症拡大防止策と経済活動という互いに独立した問題を同時多発的に抱えた社会

④ 感染症拡大防止策は個人対応、経済活動は事業対応で、政策の統一性を欠いた社会

⑤ 感染症拡大防止策を強化するほど経済活動が停滞するというジレンマを抱えた社会

問五 傍線部イ『コロナ後』とは、新たなイノベーションをめぐる、米中を軸にしたグローバル競争の時代だという」を筆者がここに書いた理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、17。

- ① コロナ禍を素通りして先を見通す考え方に対して、筆者が強い違和感を抱いているから
- ② コロナ禍を乗り越えて将来を見通すビジョンに対して、筆者が強く共鳴しているから
- ③ コロナ禍を体験した世界の未来像を描く考え方を、筆者が建設的なものとして期待しているから

- ④ コロナ禍を克服してもいないのに、大国の対立にばかりこだわる考え方に、筆者が嫌悪感を抱いているから

- ⑤ コロナ禍は永遠の問題なので、コロナ後を想像しても仕方がないと筆者が考えているから

問六 次のi～viについて、傍線部ウ「パンとサーカス」における「パン」にのみあてはまるものに①、「サーカス」にのみあてはまるものに②、両方にあてはまるものに③、どちらにもあてはまらないものに④を記しなさい。解答番号は、18 ～ 23。

18	i 医療
19	ii 市場で提供されるもの
20	iii 不要不急のもの
21	iv 文化を生み出すもの
22	v 私的に大事なもの
23	vi 人間の欲望に根ざすもの

問七 傍線部エ「希少性を処理する方法」についての説明として**適当でない**ものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、**24**。

- ① 社会全体の欲望の総量に対して十分ではない総資源をどう分配するかを考える。
- ② 個々の欲望について、必要か不要かより、欲望の充足が生みだす利潤を評価する。
- ③ 人口に対して富は常に十分ではないので、希少な誰に富を割り当てるかを考える。
- ④ 欲望が充足できないのは富が希少であるためなので、富を拡大しようとする。
- ⑤ 無限の欲望を満足させることを目標として、実現のための技術革新を考える。

問八 傍線部オ「何かきわめて大事なものの見方」とはどのようなものか。説明として最も**適当なもの**を、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、**25**。

- ① 「過剰な欲望」の生み出す「文化」は不要不急であるが、だからこそ大切なのだとみなす考え方
- ② 「過剰な欲望」の中でも「文化」の基礎となるものは社会に有効であるので、それを遺そうとする考え方
- ③ 「過剰な欲望」は生存の確保とは対立するが、社会に極めて大きな影響力を持つことを評価すべきだという考え方
- ④ 「過剰な欲望」の価値を、利潤ではなく人生や社会への貢献にあるとして評価する考え方
- ⑤ 「過剰な欲望」は絶対必要な欲望と同様に市場で提供されるものであるので、差別なく尊重すべきだという考え方

問九 傍線部力「大事なもの」とはどのようなものか。説明として最も**適当なもの**を、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、**26**。

- ① 個人間の信頼関係を作り上げ、社会の経済発展の基礎となるもの
- ② 個人の精神的安定と人生の充足を支える、かけがえのないもの

- ③ 他人にとっては無意味であるため、市場での取引価格がつかないもの
- ④ 社会全体のよりどころとなる、平和や愛の基盤となるもの
- ⑤ エッセンシャルワークとも呼ばれる、社会にとって必要不可欠なもの

問十 本文全体における筆者の意見として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、

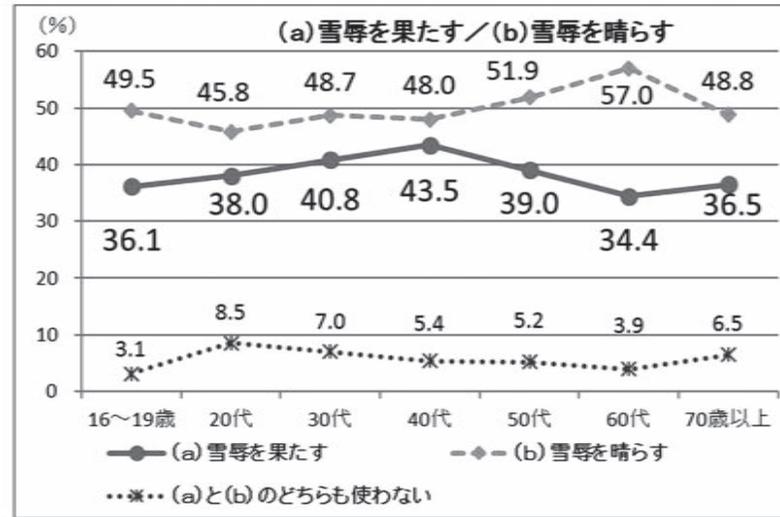
27。

- ① 人間は必要よりも不要不急のものにこそ多大なエネルギーを注ぐ習性を持っているが、コロナ禍に見舞われた今はエネルギーの行き場を失った状態であるので、コロナ後は不要不急へのカネと人心の流れを取り戻すべきである。
- ② 古代から人は、サーカスなど不要不急の娯楽によって国ごとの文化を形成し、人間らしさを保ってきたが、グローバル社会はすべてを平板化してしまったので、コロナ禍を機に多様性を取り戻すべきである。
- ③ 古来人間は、各自の生を充足させるために適切な生活の規模をわきまえていたはずだが、やがて経済が単一の価値観となると競争や拡大を偏重し素朴な幸福を軽視するに至ったので、コロナ禍後は価値観を見直すべきである。
- ④ 現代人は不要不急という無駄なもの、過剰なものを重んじるあまり、それと矛盾する生物学的な意味での生を失うに至ったので、コロナ禍を教訓として何が真に必要なかをしっかりと捉え直すべきである。
- ⑤ 現代社会は、不要不急のものには人間を人間たらしめる「文化」の母胎もあることを考えないままに、すべてをカネに換算してきたが、コロナ禍を機に、経済と文化に加え生の充実も満足させる価値観を確立すべきである。

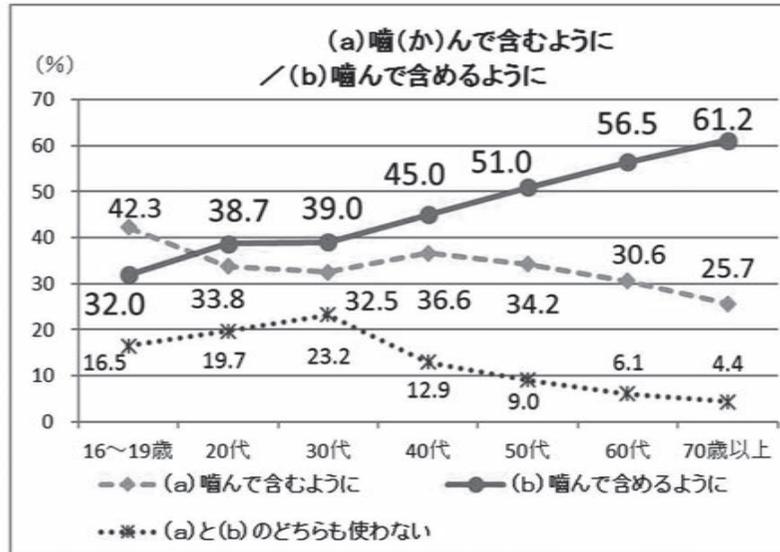
二 次の問一と問二に答えなさい。

問一 次の表は、令和元年度「国語に関する世論調査」（文化庁）を元に作成したものである。これについて、後の問いに答えなさい。

表（一）



表（二）



(https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/kokugo_yoronchosa/pdf/92531901_01.pdf)

※辞書等で主に本来の言い方とされてきたものを実線(—)で表示した。

(1) この表について、以下のように説明文を作成した。空欄に入る語句として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、Aが28、Bが29、Cが30、Dが31、Eが32、Fが33、Gが34。

表(一)(二)は(A)について調査した結果を示したものである。

(一)を見ると、全ての年代で、辞書などで本来の言い方とされてきたものとは異なる「雪辱を晴らす」を選択した人の割合が、本来の言い方とされてきた「雪辱を果たす」を選択した人(B)。中でも、(C)、それぞれの表現を選択した人の割合に20ポイント以上の差がある。

一方、(二)では、(D)で、辞書等で本来の言い方とされてきた「噛んで含めるように」を選択した人の割合が、もう一方の表現を選択した人を上回っている。中でも、70歳以上では、「噛んで含めるように」を選択した人の割合と「噛んで含むように」を選択した人の割合に (E) の差がある。また、「どちらも使わない」と答えた人の割合は、50代以上では (F) のに比べ、30代以下では (G)、やや高くなっている。

28

A

- ① 慣用句の表現のゆれと使用実態
- ② 日本語の変化と若者言葉
- ③ 慣用句の意味の変遷
- ④ 年代別の言葉に対する意識
- ⑤ 慣用句の使用率

29

B

- ① とほぼ同率である
- ② を下回っている
- ③ を追い抜いている
- ④ を上回っている
- ⑤ に勝っている

30

C

- ① 50代以上では
- ② 40代では
- ③ 60代では
- ④ 16～19歳では
- ⑤ 30代では

(次頁に続きます)

31

D

- ① 16～19歳を除く全ての年代
- ② 30代以上の年代
- ③ 70歳以上の年代
- ④ 16～19歳までと、70歳以上の年代
- ⑤ 10代

32

E

- ① わずか30ポイント
- ② 30ポイント以上
- ③ 約25ポイント
- ④ 約半数
- ⑤ およそ3分の1

33

F

- ① 1割以下である
- ② 4.4パーセントである
- ③ わずか1割である
- ④ すでに1割を切っている
- ⑤ ほとんど見られない

34

G

- ① 2割台と
- ② 増加傾向にあり
- ③ 1割台半ば～2割台前半と
- ④ 約20人と
- ⑤ 2割足らずで

(2) この調査結果から読み取れることとして、最も適当なものを、次の①～⑦のうちから二つ
選びなさい。 解答番号は、

35

36

(順不同)。

① (一)(二)の調査結果から、「雪辱を晴らす」「噛んで含むように」という本来と異なる言い
方が今後主流になっていくことが予想される。

② (二)の調査結果から、「噛んで含むように」は若者の間で主に使われていることが分かる。

③ (一)(二)ともに、16～19歳では本来の言い方とは異なる表現を用いると答えた人の割合が
高くなっている。

④ 「雪辱を晴らす」という言い方は、「屈辱を晴らす」という言い方に影響された誤用である。

⑤ 「噛んで含めるように」という慣用句に含まれる「含める」という言葉が使われなくなっ
てきたため、10代では「噛んで含むように」と言うようになった。

⑥ 「雪辱を果たす」「雪辱を晴らす」という言葉をどちらも使わないという人は全年代を通して
10パーセント未満である。

⑦ (一)(二)ともに、中高年層で表現の混同が顕著であり、それが若年層にも伝わっていると
考えられる。

問二 次のコラムは、▼を付した最初と最後の段落以外は順序が正しくありません。これを読んで、後の問いに答えなさい。

▼「につほんのていわうさま」(天皇)を北京に住まわせることにした――。豊臣秀吉の世界戦略が記された史料を福井県小浜市で見た。朝鮮征服の後にアジアをどう支配するか、側近に書かせて正室に送った書状である。

① 小浜市教委によると、発見されたのは江戸後期。地元の豪商宅でびょうぶの下張りにされていた。専門家による修復が先月終わったところだ。3頁近い紙に虫食いやノリの跡はあるものの、墨痕は十分に鮮明である。

② イエズスの宣教師らから世界情勢を吸収したはずの秀吉が、日本の軍勢力をこれほど過大視していたことに驚く。緒戦の快進撃で高ぶったにしても、希代のホラ吹きか。あるいは哀しむべき(I)か。

③ 「につほんのふなつきにんぼうふ きよ所を」。日本の船着き場である寧波(中国浙江省)に自身の居所を置こうと考えた。今後のアジアでの戦闘に貢献した武将には、天竺(インド)近くに領地を与えらるゝも述べている。

④ 書き出しは「かうらいのミヤ(すきつる二日にらつきよ)。高麗の都は去る(1592年5月)2日に落居(陥落)したと戦況を語る。秀吉の軍勢はまもなく明軍の支援を得た朝鮮軍に押し戻されるのだが、この時点で大閤の視線は一足飛びに明攻略の先へ飛ぶ。

▼ とはいえ、教室でまず習うことのない独自の世界観には興味を尽きない。四百余年前に書かれたひらがなの列をたどりつつ、「天下人」秀吉の頭の中をのぞき見た気がした。

(朝日新聞朝刊コラム「天声人語」による)

(1) それぞれの段落を正しく並べると、順序はどうなりますか。それぞれの位置に入る最も適当なものを、①～④のうちから一つずつ選びなさい。(完全解答) 解答番号は、

37

〜

40

▼最初の段落―(

37

―(

38

―(

39

―(

40

―)▼最後の段落

(2) 空欄 (I) に入る最も適切な語句を、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は、

41。

- ① 井の中のかわず
- ② 虎の威を借る狐
- ③ 蝸牛かぎゅう角上の争い
- ④ 弥縫策びほうさく
- ⑤ 小刀細工

以上で問題は終わります。